

究極の寢室が 朝日新聞に紹介されました。

2017年5月16日（火）朝刊

バス運転手へ「究極の寢室」

自然素材で快眠提供

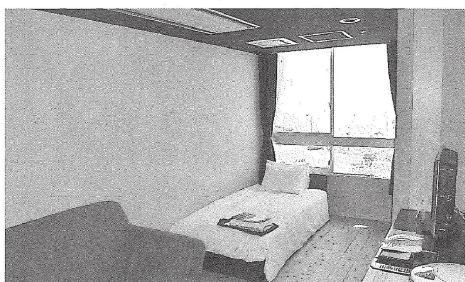
銚子市の景勝地・犬吠埼の観光ホテル「犬吠埼ホテル」に、貸し切りバスの運転手らのための「究極の寢室」ができた。自然素材を生かし快眠を促すという。客の命を預かる運転手に、質の良い眠りを提供することで、安全運転をサポートしようとの取り組みだ。

太平洋を一望するホテルの4階に、「究極の寢室」はある。入り口より一段高くした床は、宮崎県産の「肥後杉」の板張り。素足に気持ちが良い。その床下と天井、壁には消臭効果があるといわれる炭を塗り、壁はさらにその上に、湿度調節機能があるといわれる珪藻土の壁材が施されている。

全47室の中で最も狭い17平方メートルのシングルルーム。浴室はなく、主に貸し切りバスの運転手や、団体旅行の添乗員の宿泊に使われてきた部屋を改装した。

梅津佳弘・総支配人によると、今年初め、長野県軽井沢町でのスキーバス事故から1年になることもあって、バス運転手の待遇改善が気になっていたところ、県内の住宅会

犬吠埼ホテル、安全運転サポート



社が手がけた「究極の寢室」の存在を知り、導入を決めた。「お風呂は、天然温泉の大浴場がある。疲れを癒やし、何も考えずにぐっすり眠ってほしい」という。

「究極の寢室」を開発したのは、松戸市の「早稲田ハウス」。長年、住む人の健康に

配慮した住宅づくりを手がけてきた。昨年2月に銚子電鉄外川駅の愛称命名権を取得したのが縁で、銚子の観光業界とも関係ができ、犬吠埼ホテルの改装につながった。

早稲田ハウスの金光容徳社長は「森の中にいると良く眠れる。そんな環境をつくれたら」との思いで、自然の素材を取り入れた」と説明。同社は同時に、銚電に対し安全運行を続けられるようにと、仲ノ町駅の宿直室を「究極の寢室」に改装して寄贈した。

犬吠埼ホテルの「究極の寢室」は、3月中旬から利用されている。バス運転手からのメッセージはまだないが、空きがあつて泊まった客の一人は、「朝、目覚めた時の空気の良さを感じた」と感想を寄せた。

梅津総支配人は「もう少し広い部屋も改装して『究極の寢室』を増やし、ホテルのセイルスポイントの一つにしていきたい」と話している。

（福田祥史）

犬吠埼ホテルにできた「究極の寢室」。カーテンを開けると太平洋が一望できる。銚子市・犬吠埼



健康住宅専門店

早稲田ハウス®